

ら訪 探 歴史 クラブ

TAHARA History Inquiry Club

其の56

幻の建築家 永瀬狂三

永瀬狂三、いったいなんという変わった名前でしょう。

永瀬狂三は明治10年、現在の田原市田原町で生まれました。祖父は田原藩の国元家老の鈴木弥太夫です。故あって父の代で苗字を改称し、永瀬と名乗っています。

東京帝国大学建築学科を卒業し、明治期の代表的建築家である辰野金吾（レンガを基調とした独特の西洋建築を得意とし、東京駅、日本銀行本店を設計）率いる辰野・片岡設計事務所を経て、明治42年、京都帝国



京都大学建築本部本館（通称時計台）

大学（現京都大学）の建築設計・監督補助の嘱託や講師、営繕課などに勤務。昭和4年退職後に京都工学校校長となり、昭和30年、77歳で死去しました。

この田原出身の建築家は、京都帝国大学の営繕課長時代に、大学内の建築物を数多く設計しました。その中には国の登録文化財になっているものもあり、大正期の建築史を語る上でも重要な近代建築家として評価が高まっています。

永瀬の作品は、勤務の関係上京都大学に多く残されています。大正3年に建築された文学部博物館（国登

録・山本治兵衛と共作）は、永瀬の代表作です。レンガ造りにモルタルで仕上げられており、入口のブローケンペディメントや楕円形窓など「ネオ・バロック様式」を基調に、細部に至るまで細やかな意匠が施され、華麗な建築となっています。

京都大学地球物理学研究所（国登録・別府市）は、大正13年に建設されました。辰野金吾が得意とした赤と白のレンガで整えた外観、塔屋と玄関を中心に左右対称とした構成、幾何学的な意匠は、大正期を代表するものでした。

そのほか、京都大学のシンボルである建築本部本館（大正14年建築、通称時計台）も永瀬が関わった作品です。

永瀬ゆかりの地・田原では、残念ながらレンガ造りの作品は設計していないようですが、木造和風建築の成章館中学（現成章高等学校）の講堂兼武道場（大正5年）、中部尋常小学校（田原中部小学校）の奉安殿



成章館中学講堂兼武道場

（大正9年）を設計しています。特に、当時全国唯一の町立中学校であった成章館中学の講堂兼武道場は、学校のシンボルになるような建築物にと永瀬に依頼され、永瀬自身も篤志で設計したものでした。しかし、これらはいずれも取り壊されてしまい、現在は残っていません。（増山）

文化財課 ☎23局3531

このコーナーでは、身近な史実に目を向け、そこから学ぶという視点で、田原市の歴史・文化・風俗などを紹介しています。